

いわざわざ しとどの窟



● れきし 歴史

じしやう ねん ねん お いしはしやま たたか ま に みなもとのよりとも
治承4年(1180年)に起こった「石橋山の戦い」で負けて逃げていた源頼朝

が、^{てき}敵からの^お追ひ^う打ちから^み身を^{かく}隠すために^{ひそ}潜んだといわれる^{どうくつ}洞窟です！

いしはしやま たたか げんじ みなもとのよりとも なかま へいけがた たいらのきよもり
「石橋山の戦い」とは、源氏(源頼朝とその仲間)と平家方(平清盛とその

仲間)が^{けんりよく}権力を^{あらそ}争って^お起きた^{たたか}戦いのひとつで、^{とうじ}当時の^{いしはしやま}石橋山(現在の^{おだわらし}小田原市

^{いしはし}石橋の^{やま}山)で行った^{おこな}戦いのことです。この^{たたか}戦いは^{ねんちか}6年近くも^{いろいろ}色々なところで

^{あらそ}争っていて、その^{ぜんぶ}全部の^{たたか}戦いのことを「^{げんぺいかっせん}源平合戦」といいます。

そしてここがなぜ「しとどの窟」と呼ばれるようになったかという、^{たたか}戦いで^{やぶ}敗れ

た^{みなもとのよりとも}源頼朝たちが^{かく}隠れていないかと、^{てき}敵の^{へい}兵が^{たし}ここを^{たし}確かめようとしたら、「しと

ど」と呼ばれる^{とり}鳥が^{どうくつ}洞窟の中から^な飛び^だ出してきて、「^{だれ}ここには誰もいないな」となっ

て^{かえ}帰ってしまったそうです。そうして、^{みなもとのよりとも}源頼朝らは^{のが}逃れられたと言われていま
す。

「しとど」とは、実は鳥^{とり}のことで、「しとどの窟^{いわや}」と呼ばれるようになりました。

鎌倉時代^{かまくらじだい}にこの地域^{ちいき}で何が^{なに}あったか、源頼朝^{みなもとのよりとも}や土肥実平^{ど い さねひら}（銅像^{どうぞう}がチェックポイ

ントにもなっていたね！）など昔^{むかし}の人たち^{ひと}との関わり^{かか}を深く^{ふか}知^しることで多く^{おお}のこと

を学^{まな}ぶ機^き会^{かい}となる^なるかもしれ^ません！

● 地域^{ちいき}との関わり^{かか}

20体以上^{たいいじょう}の石像^{せきぞう}が置^おかれていて、湧き水^{わ みず}の音^{おと}など、夏^{なつ}でも涼^{すず}しく過^すごせ、観光^{かんこう}

スポット^しのひとつとして^しも知^れられています。歴史^{れきし}好き^ずの人^{ひと}や非日常^{ひにちじょう}を味^{あじ}わいたい

人^{ひと}に人^{にん}気^きの場^ば所^{しょ}とな^なっています。

● 関連^{かんれん}のあるチェックポイント

・土肥実平像^{ど い さねひらぞう}…しとどの窟^{いわや}は土肥実平^{ど い さねひら}が敵^{てき}から隠^{かく}れていた場^ば所^{しょ}です。

・小梅堂^{こうめどう}（きびもち）…しとどの窟^{いわや}で土肥実平^{ど い さねひら}が隠^{かく}れていた時^{とき}に食^たべていたお

菓^か子^しです。